

## 陳情書

**【件名】**海老川流域の治水への影響調査（治水シミュレーション）と、市民説明会について。

### 【趣旨】

- 1] 治水シミュレーションをやり直すこと。
- 2] 全市民を対象とした、組合と市による事業全般の説明会を開くこと。
- 3] 市民の理解が得られるまで、工事を始めないこと。

### 【理由】

1] 8月19～21日の説明会で示されたシミュレーション結果は、以下の理由で適切ではありませんでした。したがって別の方法でやり直す必要があります。

- ① **県の河川工事は不確実なもの。** 今回シミュレーションの条件に加えられた2つの河川工事（海老川調節池の暫定掘削、海老川下流の河床掘削）について、県は「着工時期未定、完了時期は令和16年を目指す」と説明しました。またこれらの工事は河川整備計画を示したもので、土地区画整理事業とはリンクしていないことも説明会で明言しました。

したがって今回のシミュレーションで示された「浸水深はおおむね減少」という結果は、遠い未来の、県の工事が完了した時の状況であり、工事の影響を示すものではありません。今回の結果をもって、工事は安全とするのは誤りです。市民の不安はぬぐえません。

- ② **ハザードマップで比較するのは間違い。** 既存のマップと比較するため

に、今回のマップは既存のマップと同じデータを基にし、そこに工事の条件をプラスする形で行われました。しかし既存のマップが準拠したのは平成 22～27 年のデータです（地形、河川の流量、農地の面積等。平成 4 年 7 月情報公開請求）。

そのため、今回のマップは現状を反映していません。既存のマップが準拠した約 10 年前より、今の方が宅地化が進み、緑地は大きく減少し、土地の保水力が失われています。

- ③ **遊水量で検証するべき。** 県の都市計画審議会では、屋井鉄雄東京工業大学教授などより、海老川上流地区に溜まっていた水が、盛り土によってどのくらい下流に流出するようになるか（遊水量の棄損）検証するように言われました。ハザードマップを比較せよとはひととも言われていません。

今回ハザードマップの比較では正しく検証できないことが明らかになった以上、遊水量で検証し直す必要があります。満潮時の海老川の水位なども反映するべきでしょう。

- 2]メディカルタウン構想に伴う海老川上流地区土地区画整理事業は、海老川水系の自然環境や生物、治水、さらには市全体の医療、経済、交通などに大きな影響を与えるものです。また、私有地の開発でありながら多額の市税と公的補助金が投入される、公共事業の体を成している事業です。工期約 12 年。船橋史上稀に見る大事業です。

そのため市と事業主である組合には、全市民に対し事業の説明責任があります。

- 3]今回のシミュレーションでは、不確実な県の河川工事を条件に入れてもなお、被災する地域が出るようになりました。組合の認可権者である市は「説明会をやったから、もう工事を止められない」と言うのではなく、「被災者が出ないよう最大限の努力をし、事業について市民の理解が得られてから工事をするように」と、組合を指導するべきです。

### 【結論】

正確なシミュレーションも説明会も、市民の命と財産を守り、事業を円滑に進めるために不可欠なものです。以上により、市議会は上記 3 つの項目を実行するよう、市に勧告してください。